

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※ 受理番号	学校	教科	種目	学年
103-198	高等学校	芸術	書道Ⅱ	
※ 発行者の番号・略称	※ 教科書の記号・番号	※ 教科書名		
2 東書	書Ⅱ 701	書道Ⅱ		

1. 編修の基本方針

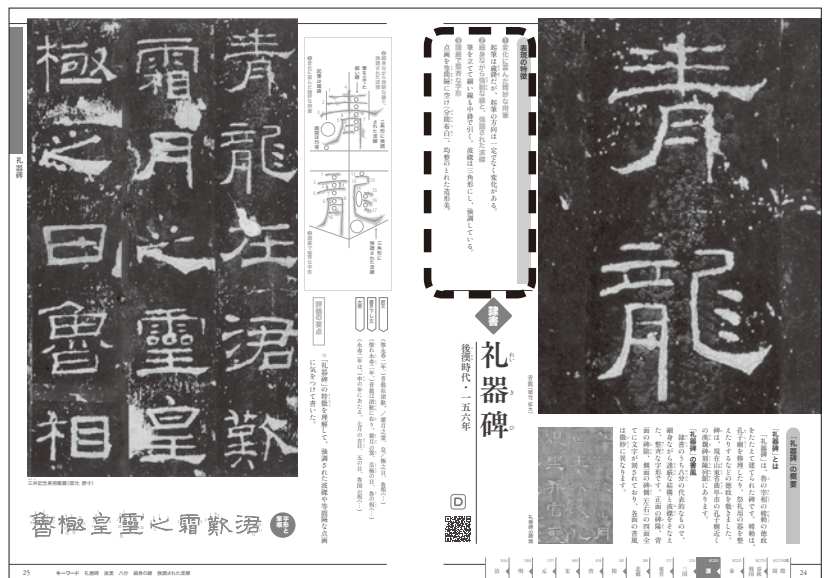
「書之美を創る」

本教科書は「書道Ⅰ」の学習を踏まえて、生徒が書の伝統と文化への関心を深め、身につけた表現の技能と鑑賞の能力を効果的に使用した創作や、書を通じた心豊かな生活や社会環境を創造しようとする態度を養えることを目指して編修しました。

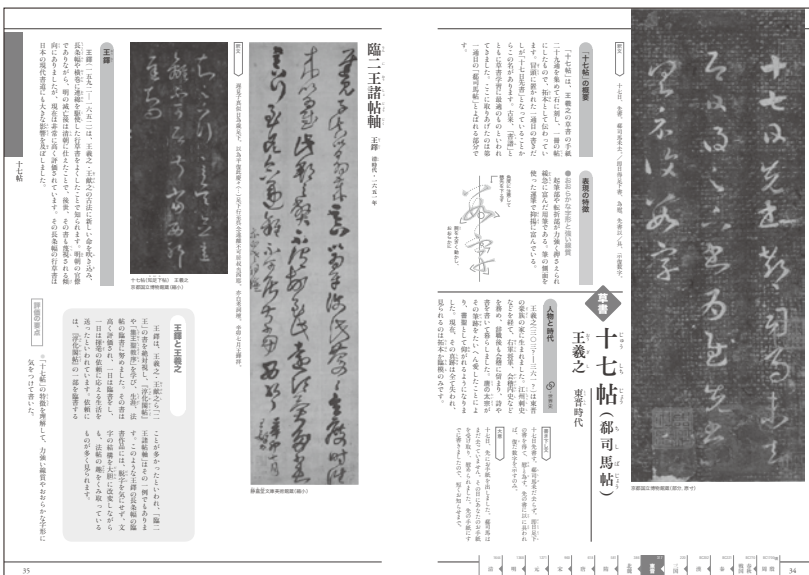
① 多様な書の表現や形式について理解し、表現と鑑賞の能力を深める

「書道Ⅰ」に引き続き古典や古筆の特徴を具体的に示し、臨書学習などの手助けとなるように配慮しました。また、拓本や肉筆、篆刻や刻字、仮名の書表現など、書の多様な表現方法や形式について理解できるように、教材を選定しました。

●「表現の特徴」では、古典や古筆の書風や用筆などの特徴を具体的に言語化してまとめ、学習の理解が深まるように配慮しています。



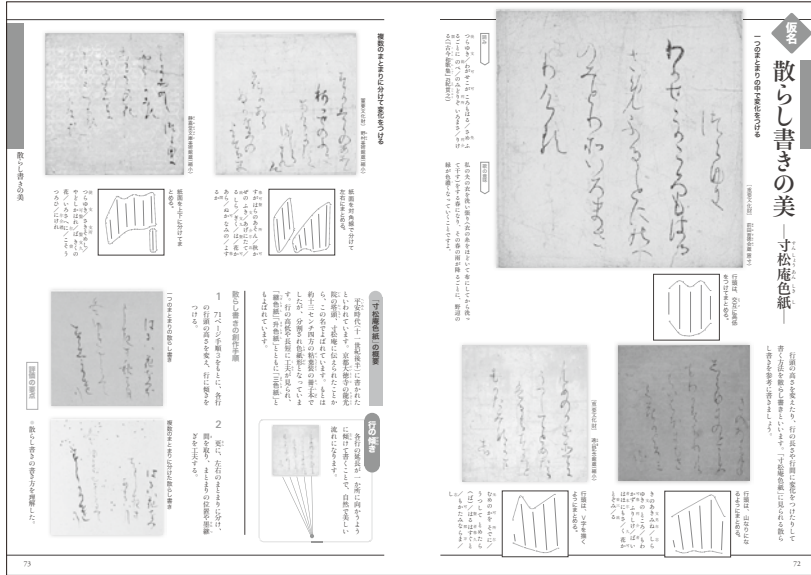
p.24-25



●拓本と臨書の関係などについて考えられるように配慮しています。

p.34-35

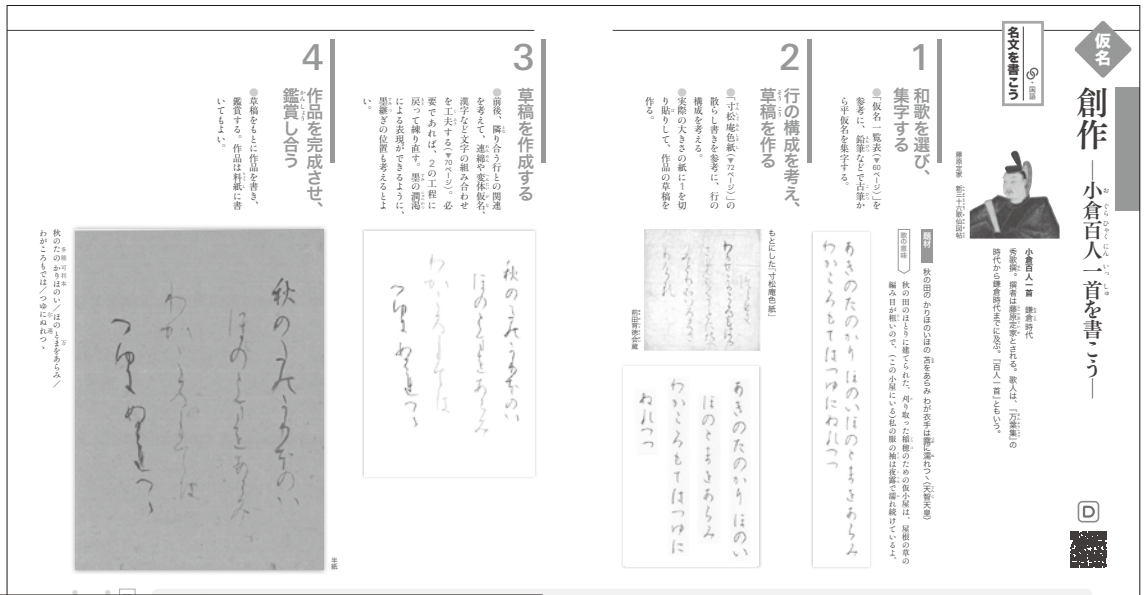
● 仮名の散らし書きを学ぶために、「寸松庵色紙」を題材に様々な形式を掲載しています。



p.72-73

2 書への感性を深め、創造的に表現する力を身につける

「漢字の書」や「仮名の書」では身につけた技能や構成力を生かした創作、「漢字仮名交じりの書」では、古典や古筆を踏まえ自らの感興と個性を生かした創作に取り組めるように工夫しました。



p.76-77



p.90-91

3 書の伝統と文化に親しみ、心豊かな生活や社会環境を創造する態度を養う

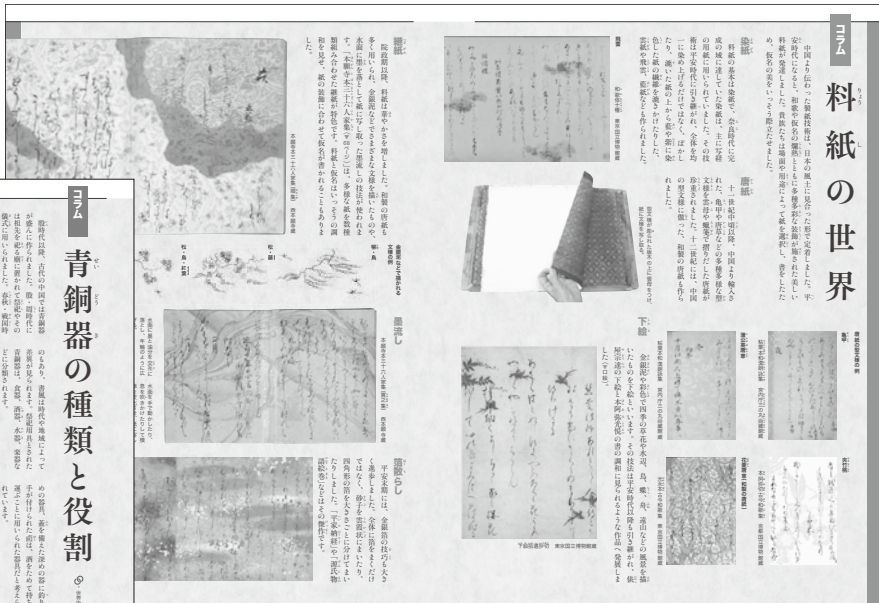
各教材には古典の概要や歴史的背景を示し、さらに書の伝統と文化について理解を深めたり、知的好奇心を刺激したりする題材を幅広く取り上げました。

●書体と書写材料の変遷やそれらを取り巻く環境について触れたり、日本の王朝文化に深く関わる技術やエピソードなどを紹介したりするなど、生徒の関心を引くような題材をご用意しています。



p.80

p.13



p.74-75

●受け継がれてきた書作品の保護や公開に関わる活動を紹介し、書と社会の関わりについて関心と理解が深められるように配慮しました。

書の公開

多くの人が手に取りたいもの、全市民に開かれた文化の場を、中心に、さまざまな活動が行われています。

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

書の保存

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

文化遺産としての書

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

デジタル化

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去

展示の企画
展示の準備
展示の開催
展示の撤去


2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p style="text-align: center;">漢字の書</p> <p>篆書の美 篆書 (石鼓文, 甲骨文, 大孟鼎)</p> <p>隸書の美 隸書 (礼器碑, 張遷碑, 開通褒斜道刻石, 居延漢簡)</p> <p>草書の美 草書 (書譜, 十七帖, 自叙帖, 国中文帖)</p> <p>行書 (集王聖教序, 温泉銘, 祭姪文稿, 蜀素帖, 伊都内親王願文)</p> <p>楷書 (張猛龍碑, 鄭義下碑, 孟法師碑, 薦季直表, 樂毅論)</p> <p>創作 — 漢詩を書こう —</p> <p>鑑賞 — 書の美や風趣を味わおう —</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書に関する幅広い知識や教養を身につけられるように、さまざまな種類の古典作品を掲載し、作品の概要や表現の特徴、歴史的背景などの解説を取り上げました。(第1号) ・創作の活動においては、学習過程を明確にし、見通しを持って学習を進められる構成とすることで、自主・自律の精神と主体的な学習態度を養うよう配慮しました。(第2号) ・鑑賞の活動においては、感じたことや考えたことを伝え合う言語活動を取り入れて、自己と他者を尊重し、協働的な学びができるよう工夫しました。(第3号) ・書体の概要を示すことで、日本と中国が育んできた文字を通して、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うよう配慮しました。(第5号) 	<p>p.4-13, p.22-51</p> <p>p.52-53</p> <p>p.54-55</p> <p>p.4-5</p>
<p style="text-align: center;">篆刻・刻字</p> <p>印の歴史と用法</p> <p>創作 — 落款印を刻そう —</p> <p>鑑賞 — 篆刻の美や風趣を味わおう —</p> <p>創作 — 表札を彫ろう —</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・印や篆刻に関する幅広い知識や教養を身につけられるように、歴史に沿ったさまざまな種類の印を掲載し、印の概要や表現方法、歴史的背景などの解説を取り上げました。(第1号) ・印の歴史について知ること、日本と中国が育んできた文字を通して、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うよう配慮しました。(第5号) ・創作の活動においては、学習過程を明確にし、見通しを持って学習を進められる構成とすることで、自主・自律の精神と主体的な学習態度を養うよう配慮しました。(第2号) ・鑑賞の活動においては、感じたことや考えたことを伝え合う言語活動を取り入れて、自己と他者を尊重し、協働的な学びができるよう工夫しました。(第3号) 	<p>p.14-15</p> <p>p.14-15</p> <p>p.16-18, p.20-21</p> <p>p.19</p>
<p style="text-align: center;">仮名の書</p> <p>仮名の美 — 古今和歌集に見る展開 —</p> <p>仮名一覧表 — 平仮名・変体仮名 —</p> <p>連綿</p> <p>仮名の書 (高野切第一種, 本願寺本三十六人歌集, 針切)</p> <p>行書きの美 — 曼殊院本古今和歌集 —</p> <p>散らし書きの美 — 寸松庵色紙 —</p> <p>創作 — 小倉百人一首を書こう —</p> <p>鑑賞 — 書の美や風趣を味わおう —</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書に関する幅広い知識や教養を身につけられるように、さまざまな種類の古典作品を掲載し、作品の概要や表現の特徴、歴史的背景などの解説を取り上げました。(第1号) ・創作の活動においては、学習過程を明確にし、見通しを持って学習を進められる構成とすることで、自主・自律の精神と主体的な学習態度を養うよう配慮しました。(第2号) ・鑑賞の活動においては、感じたことや考えたことを伝え合う言語活動を取り入れて、自己と他者を尊重し、協働的な学びができるよう工夫しました。(第3号) ・古今和歌集の歴史や料紙の解説などを示すことで、我が国の伝統と文化を尊重し、国と郷土を愛する態度を養うよう配慮しました。(第5号) 	<p>p.58-59, p.64-73</p> <p>p.76-77</p> <p>p.78-79</p> <p>p.58-59, p.74-75</p>

漢字仮名交じりの書	古典を生かした表現 自分の意図に応じた表現 言葉と書の調和 創作 一心に響いた言葉を書こう— 鑑賞 一書の美や風趣を味わおう— 書で発信しよう 心に触れる手紙	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の活動においては、学習過程を明確にし、見通しを持って学習を進められる構成とすることで、自主・自律の精神と主体的な学習態度を養うよう配慮しました。(第2号) ・書の特徴を生かしたポスターなどを示し、書を通して社会に参画することの意義を考えられるよう配慮しました。(第3号) ・教材の文字例に自然に関する文言を取り上げることで、生命を尊重し、環境保全に寄与する態度を養うように配慮しました。(第4号) 	p.94-95 p.98-99 p.88 他
口絵 書道史地図		<ul style="list-style-type: none"> ・「書の表現と歴史」では、漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書それぞれの書の歴史を概観し、それらの表現の特質と変遷について理解し、書全般に関する幅広い知識や教養を身につけられるよう配慮しました。(第1号) 	p.102-106
資料	書の表現と歴史 書道史略年表 書を支える人々 鑑賞の言葉を広げよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「書を支える人々」で身近にある美術館・博物館を紹介して、それらの社会施設の活用について示すことで、社会の一員としてその形成に参画し発展に寄与する態度を養うよう配慮しました。(第3号) ・「書道史地図」と「書道史略年表」を示すことで、我が国と他国の伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮しました。(第5号) 	p.112-113 口絵 2-p.1, p.107-111

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色


① 教育のICT化への取り組み

- ・教科書上に  がある単元がある単元 (p.8, 24, 32, 62 他) では、インターネットを使って漢字や仮名の書の運筆動画を提供しています。教科書紙面に掲載されている二次元コードや URL からアクセスして、タブレットやスマートフォンで視聴できるので家庭学習や個別学習にも活用できます。

(「編修趣意書 (学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)」の「2. 対照表」参照。)

- ・目次の「マークの説明」から、「書道用語 200」の PDF データを開くことができるようにしています。書道用語で確認したい用語があれば、タブレットやスマートフォンなどから PDF の検索機能を使い、簡単に意味を調べることができるようにしました。

② 他教科の学習との関連

- ・国語や日本史、世界史など他教科の学習と関連する教材には教科関連マーク  を付けることで意識化を図り、効果的な関連指導ができるように配慮しました。(p.4-5, 6-7, 13 他)

③ ユニバーサルデザインを取り入れた紙面

- ・色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- ・情報のまとまりが分かりやすいレイアウトや色使いにし、生徒の集中を妨げないように配慮しています。

④ 環境に配慮した印刷・造本

- ・再生紙・植物油インキを使用しています。
- ・印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷しています。
- ・ページの開きがよく、かつ耐久性が非常に高い P U R 製本を採用しています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※ 受理番号	学校	教科	種目	学年
103-198	高等学校	芸術	書道Ⅱ	
※ 発行者の番号・略称	※ 教科書の記号・番号	※ 教科書名		
2 東書	書Ⅱ 701	書道Ⅱ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学びやすい単元構成


「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための工夫

- 主体的に取り組めるように学習の手順を明確に示しています。また、古典や古筆の「表現の特徴」では、書風や用筆、全体の構成などを具体的に言語化し、創作や観賞に活用しやすいよう配慮しました。

可能な限り原寸で掲載し、画質の向上も図りました。

表現の特徴
古典を通して学ぶポイントを焦点化して、簡潔な解説と図版で分かりやすく示しました。

概要
古典の歴史的背景と書風について解説しました。




「青龍」の筆順と特徴

① 筆の立ち上がりは、筆先を引くことで、筆の方向は一定でなく変化がある。

② 筆の立ち上がりは、筆先を引くことで、筆の方向は一定でなく変化がある。

③ 筆の立ち上がりは、筆先を引くことで、筆の方向は一定でなく変化がある。



礼器碑
後漢時代・一五六六年

「礼器碑」は、魯の宰相の墓の銘石をたたくて建てられた碑です。筆勢は孔子廟を修築したり、祭礼の器を整えたりするなどの歴史を載せました。碑は、現在山東省曲阜市の孔子廟近くの漢碑林に所蔵されています。

「礼器碑」の書風
「礼器碑」は、魯の宰相の墓の銘石をたたくて建てられた碑です。筆勢は孔子廟を修築したり、祭礼の器を整えたりするなどの歴史を載せました。碑は、現在山東省曲阜市の孔子廟近くの漢碑林に所蔵されています。

キーワード
当該教材の学習における重要用語を示しました。評価の際にも活用できます。

字形と筆順
特に字形や筆順が分かりづらい文字を取り出して、硬筆の骨書きと筆順を示しました。

マーク・二次元コード
インターネットを使って運筆動画を見ることができます。

時代スケール
成立年代を視覚的に捉えることができます。

2 鑑賞学習の充実

●鑑賞学習の充実を図るため、書道Ⅰに引き続き「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻・刻字」の各領域に鑑賞の単元を設けました。また、「鑑賞の言葉を広げよう」を継続して巻末に掲載し、鑑賞の際に用いる語彙の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉を広げよう

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉を広げよう

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉を広げよう

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉を広げよう

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

鑑賞の言葉の定着と、鑑賞の視点の再確認ができるように配慮しています。

p.114-115

p.57

●生涯にわたって書を愛好する心情を育むために、身近な美術館や博物館などで書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を支える人々

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を支える人々

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

書を守り受け継ぎ、同時に普及させる姿を示した「書を支える人々」を新設しました。

●教科書の中でも、より多くの書の美に触れることができるように、「漢字の書」「仮名の書」の扉ページには、大きく鮮明な画像で古典作品を掲載しました。

p.112-113

3 精選された教材群

- 「漢字の書」「仮名の書」では、書道Iでの学習を踏まえ、書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めたり、効果的に表現するための技能を身につけたりできるような古典・古筆を精選しました。また、教科書に掲載する箇所は、その古典・古筆の中でも字形や用筆などの特徴がよく表れている部分を選定しました。

		基本教材	参考教材	その他
漢字の書	篆書	「石鼓文」「甲骨文」 「大孟鼎」	呉昌碩「臨石鼓文」	「司母戊方鼎」「王孫遣者鐘」「楚帛書」「泰山刻石」「博文」 「篆書庾信讀四屏」
	隸書	「礼器碑」「張遷碑」「開通褒斜道刻石」「居延漢簡」		「長沙馬王堆帛書」「武威磨咀子漢簡」「敦煌漢簡」「萊子侯刻石」 「乙瑛碑」「西狹頌」「隸書軸」「七言古詩隸書」
	草書	「書譜」「十七帖」「自叙帖」 「国申文帖」	王鐸「臨二王諸帖軸」	「草書七言律詩扇面」「真草千字文」「居延漢簡」「平復帖」「初月帖」 「中秋帖」「自叙帖」「臨大令帖軸」「黄州寒食詩卷」「黄州寒食詩卷跋」 「行草書七言律詩扇面」「草書五言絶句四首四屏」
	行書	「集王聖教序」「温泉銘」 「祭姪文稿」「蜀素帖」 「伊都内親王願文」		「灌頂歴名」「久隔帖」「蘭亭序」「風信帖」「李柏尺牘稿」
	楷書	「張猛龍碑」「鄭羲下碑」 「孟法師碑」「薦季直表」 「樂毅論」光明皇后書	「樂毅論」王羲之書	「金光明最勝王經」「牛橛造像記」「九成宮醴泉銘」「自書告身」 「法句譬喻經卷第三殘卷」
仮名の書	「高野切第一種」 「本願寺本三十六人歌集(石山切伊勢集)」「針切」 「曼殊院本古今和歌集」 「寸松庵色紙」	「関戸本古今和歌集」	「継色紙」「関戸本古今和歌集」「亀山切」「本阿弥切古今和歌集」 「元永本古今和歌集」「卷子本古今和歌集」「烏丸切」「土佐日記」 「和歌体十種」「粘葉本和漢朗詠集」「下絵拾遺抄切」 「本願寺本三十六人歌集(順集)」「本願寺本三十六人歌集(貫之集)」 「源氏物語絵巻(御法)」「稿本北山抄紙背仮名消息」	

- 古典の図版は、高精細の美しい印刷で、可能な限り原寸大としました。色調も調整して原典に近づけています。
- 「漢字仮名交じりの書」では、書を使って発信をしたり、手紙の手書き文字のもたらす印象について考えたりする教材を設け、手書き文字の効果について確かめられるように工夫しました。

4 資料の充実

- 書に関する幅広い知識を身につけ、書の伝統と文化について、より深い知識を得られるように、多様な題材のコラムを随所に設けました。

コラムの内容

【漢字】

- 「青銅器の種類と役割」
- 「書写材料の変遷 -木簡から紙へ-」
- 「芸術の書へ -形式の変化とともに-」
- 「座右の銘 -自らの思いを書に託して-」

【仮名】

- 「伝称筆者」「料紙の世界」
- 「紫式部と書」



p.13

p.80

- 巻頭には「書道史地図」、巻末には「書の表現と歴史」「書道史略年表」「書を支える人々」「鑑賞の言葉を広げよう」などの学習に役立つ資料を豊富に掲載しました。

- QRマークのある教材では、二次元コードからインターネットに接続して運筆動画などを見ることができます。



二次元コード

p.24

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
書の美を作る 花卉蝶摺下絵新古今集和歌巻 書道史地図（書道用語 200 回） 書を学ぶ		B (1) ア(ア)(イ),イ(イ)(ウ)(エ)	口絵 p.1, p.2	
漢字の書	漢字の書体とその特徴	B (1) イ(ア)(イ)(ウ)	p.4-5	
	篆書 篆書 「石鼓文」 回 「甲骨文」 「大盂鼎」 (コラム) 青銅器の種類と役割	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.6-13	
	篆刻・刻字 印の歴史と用法 創作 — 落款印を刻そう— 鑑賞 — 篆刻の美や風趣を味わおう— 創作 — 表札を彫ろう—	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.14-21	
	隸書 隸書 「礼器碑」 回 「張遷碑」 「開通褒斜道刻石」 「居延漢簡」 (コラム) 書写材料の変遷 — 木簡から紙へ—	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.22-29	
	草書 草書 「書譜」 回 「十七帖」 「自叙帖」 「国申文帖」 (コラム) 芸術の書へ — 形式の変化とともに—	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.30-39	
	行書 「集王聖教序」 回 「温泉銘」 「祭姪文稿」 「蜀素帖」 「伊都内親王願文」	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.40-45	
	楷書 「張猛龍碑」 回 「鄭義下碑」 「孟法師碑」 「薦季直表」 「楽毅論」	A (2) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ) B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ) 共通事項 (1) ア,イ	p.46-51	

漢字の書	<p>創作 —漢詩を書こう—</p> <p>鑑賞 —書的美や風趣を味わおう—</p> <p>◻ コラム 座右の銘 —自らの思いを書に託して—</p>	<p>A (2) ア(ア)(イ),イ(ア)(イ), ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(エ)</p>	p.52-56	
仮名の書	<p>仮名の美 —古今和歌集に見る展開—</p> <p>仮名一覧表 —平仮名・変体仮名—</p> <p>連綿◻</p>	<p>A (3) イ(ア)(イ),ウ(ア)</p> <p>B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.58-63	
	<p>「高野切第一種」◻</p> <p>◻ コラム 伝称筆者</p> <p>「本願寺本三十六人歌集（石山切伊勢集）」</p> <p>「針切」</p>	<p>A (3) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.64-69	
	<p>行書きの美 —曼殊院本古今和歌集—</p> <p>散らし書きの美 —一寸松庵色紙—</p> <p>◻ コラム 料紙の世界</p>	<p>A (3) ア(ア),イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.70-75	
	<p>創作 —小倉百人一首を書こう— ◻</p> <p>鑑賞 —書的美や風趣を味わおう—</p> <p>◻ コラム 紫式部と書</p>	<p>A (3) ア(ア)(イ),イ(ア)(イ), ウ(ア)(イ)</p>	p.76-80	
漢字仮名交じりの書	<p>古典を生かした表現</p> <p>自分の意図に応じた表現</p> <p>言葉と書の調和</p>	<p>A (1) ア(ア)(イ)(ウ),イ(ア)(イ), ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア),イ(ア)(イ)(ウ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.82-93	
	<p>創作 —心に響いた言葉を書こう—</p> <p>鑑賞 —書的美や風趣を味わおう—</p>	<p>A (1) ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア)(イ),イ(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.94-97	
	<p>書で発信しよう</p> <p>心に触れる手紙</p>	<p>A (1) ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ)</p> <p>B (1) ア(ア)(イ),イ(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>共通事項 (1) ア,イ</p>	p.98-101	
資料	<p>書の表現と歴史</p> <p>書道史略年表</p> <p>書を支える人々</p> <p>鑑賞の言葉を広げよう</p>	<p>B (1) イ(イ)(ウ)(エ)</p>	p.102-115	

◻…インターネットを使って、動画や資料を活用できる単元。